

ばばわたうちやといせき

## 馬場綿内谷遺跡

(鶴見区 No.87 遺跡)

調査期間 20110701～継続中

所在地 横浜市鶴見区馬場

時代

縄文  
古墳  
奈良・平安  
中・近世



作成日:20111201

### 概要

馬場綿内谷遺跡は、首都高速道路株式会社と横浜市による横浜国際港都建設道路事業1・4・6号高速横浜環状北線、馬場出入口(仮称)および大田神奈川線の建設事業に伴う事前調査として、2011年7月から記録保存を目的とする発掘調査を実施しています。

遺跡は、横浜市鶴見区の丘陵上で発見されました。周囲には菊名貝塚や寺尾城跡などを縄文時代から中世までの遺跡の分布が知られています。現在行っている発掘調査で、縄文時代、古墳時代、平安時代、中世、近世の遺構・遺物が見つかっています。

中世～近世の遺構として道状遺構が検出されています。かつての尾根筋上を幅約2mの道が南北にのびています。道状遺構は一部切り通し状になり、硬くなった面が何枚も重なっていました。道状遺構からは寛永通宝などが出土しています。

古墳時代の遺構としては南側斜面下から竪穴住居跡が2軒発見されました。1号住居跡としたものは幅7mの方形で、西側の壁にカマドを設けていました。

平安時代の遺構は、火葬にした人骨をおさめた蔵骨器が4基発見されました。これらの蔵骨器は土師器の甕を使ったもので、1点が口を上、他3点は口を下にした状態で見つかっています。また2点は周囲を貝で埋めていました(写真参照)。蔵骨器と同じ時代の住居は発見されていません。こ



▲ 調査区遠景



▲ 出土蔵骨器3

これらの蔵骨器は当時のムラから離れた場所に埋葬されていた可能性が考えられます。

縄文時代の遺構は竪穴住居跡・土坑・集石土坑・落とし穴が発見されています。遺跡内からは多数の縄文時代前期の土器が出土し、これらの竪穴住居跡や土坑・集石土坑は、縄文時代前期に属するものと考えられます。



▲ 出土蔵骨器4



▲ 古墳時代の住居(調査中)